

氏名	川 田 論 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2095 号
学位授与の日付	平成12年3月31日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	男性喫煙者の禁煙実行要因に関する研究
論文審査委員	教授 吉良 尚平 教授 清水 信義 教授 黒田 重利

学位論文内容の要旨

喫煙を生活習慣病として禁煙の生活指導を行うという観点から、禁煙を実行させる要因を明らかにすることを目的とした。調査対象は基本健康診査を平成5年から平成10年まで毎年受診した40歳以上の男性喫煙者全員987人とし、平成5年の時点で、1日喫煙本数によって3群に分けた。

これら3群で生活習慣関連要因について横断的に調べたところ、年齢、肥満度、睡眠、塩分摂取、運動に統計学的有意性を認めた。次に、禁煙経験の有無と禁煙経験の年数の合計について平成10年まで経年的に調査したところ、前者では統計学的に有意性が認められたが、後者については統計学的に有意性は認められなかった。

1日喫煙本数が増えるほど生活習慣関連要因について取り組みがなされていない可能性が認められ、禁煙への取り組みの意欲にも差が生じていると推察された。しかし、禁煙経験の年数の結果から、禁煙達成後も禁煙継続を支援する事後指導が必要であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、生活習慣病予防の観点から禁煙を実行させる要因を調査した研究である。まず年齢、肥満度、睡眠等7つの生活習慣関連因子と1日当たりの喫煙本数の関連をSpearman順位相関で関連を調べ、続いて喫煙本数を目的変数とし、前述の生活習慣関連因子を説明変数とした重回帰分析を行っている。以上の解析結果から、喫煙本数に関連する要因として採択されたのは、年齢、肥満度、睡眠、塩分摂取であり、喫煙本数が多い人ほど生活習慣改善に取り組んでいない可能性がある」と結論した。また喫煙本数と禁煙経験および喫煙経験年数の関連を調べた結果、禁煙達成後も継続を支援する事後指導が必要であるとしている。審査の結果、本研究は生活習慣病対策としての禁煙への導入方法を考える上で有用な業績と認められた。よって本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。